

第53回全国林業後継者大会埼玉県実行委員会
第2回総会 議事録

日 時 令和6年5月8日（水）14:00～

場 所 飯能市市民会館 103会議室

出席者 別紙のとおり

1 開 会

2 あいさつ 実行委員会会長

新任委員紹介 飯能市農林部長

新任事務局長紹介 事務局長（埼玉県森づくり課長）

3 議事

- ・事務局から、出席者9名であり、全員の出席で総会の成立を報告
- ・会則により会長が議長に就任

・第1号議案 令和5年度事業報告及び収支決算について

配布資料に基づき事務局から説明を行った。

監事から会計監査の結果について報告を行った。

- ・質疑応答 なし

・決議

議長

第1号議案に承認いただける方は挙手をお願いします。

全委員の挙手により原案のとおり可決

・第2号議案 令和6年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

配布資料に基づき事務局から説明を行った。

- ・質疑応答 なし

- ・ 決議

- 議長

- 第2号議案に承認いただける方は挙手をお願いします。

- 全委員の挙手により原案のとおり可決

- ・ 第3号議案 第53回全国林業後継者大会の大会テーマについて

- 配布資料に基づき事務局から説明を行った。

- ・ 審議

- ※作品に対する審議のため、非公開

- ・ 決議

- 大会テーマは、「森が支える日本の未来 私たちの手で作り出そう」に決定

- ・ 第4号議案 第53回全国林業後継者大会基本計画（案）について

- 配布資料に基づき事務局から説明を行った。

- ・ 質疑応答

- A 委員

- 大会概要の1の(1)の大会の目的ですが、個人的にはよく吟味していなかった。気になるのは、「林業の振興と森づくりについて意見を交わし」というところ。

- 「林業を担う人たちが希望や誇りをもって働き続けられる林業の魅力を全国に」のところ、言葉がダブってたり、順序が違っていたりしているような気になる。皆さん、どうお感じになるのか。

- 意見になってしまうが、特にディスカッションのところは、この団体のこの人というようなパネリスト候補者案が示されて、実行委員会の了承を得てから御本人へ参加をお願いしに行くという手順、と考えよいか。

- 事務局 B

- 実行委員会の中間報告で報告をするが、交渉なので、相手に頼んでおいて実行委員会で否決されて、やっぱりあなたに頼みませんと断ることはできない。

A 委員

それは当然だよ。そういう手順ではなくて、本人に依頼をする前に、実行員会で候補者を選び、声をかけてみますけどどうですかと諮る、という手順ではどうだろうか。

事務局 B

そのタイミングでは実行委員会を開けない。11月は他県に参加者を照会する時期。今の段階でもかなりスケジュールが遅れている状況。

A 委員

今の事務局の話では、できないのではなく、したくないということに聞こえてしまう。時間がないからしたくないというように。

事務局 B

実行委員会を開けばできると思うが、恐らく難しいのではと思う。

A 委員

今直ぐ候補者を出して決めるわけではないのだから、実行委員会の意見を聴くこと、その時間を取ることはできるのでは？

無難な発言をする人で、頼んで受けてもらえる人を考えているのだろうか？
色々な人の意見を聞いてみるのがいいんじゃないかなと思う。

パネリストが、林研グループと林業関係団体と森林組合となったら、今までと同じ内容・結論になる。そうなる考える中では、それで良いのかなと疑問を持ちつつ実行委員会として承認していくことになる。

たった今の第3号議案、大会テーマについて1時間もかけて意見を交わしたのに残念。
事務局で描いている候補者の決め方は、「(大会が)狙ったものと違っても無難に始まりますって言うことでよろしいでしょうか」って聴かれているようで、釈然としない。

事務局 C

このような集まりというよりも、進捗状況をお伝えする形で大丈夫か。

A 委員

そうそう。その中であれがいいとか、足りないとか、実行委員会委員として意見表明ができる機会が欲しい。

議長

こういう人に事例発表とかしてもらったらどうかとか、候補者を皆さんからあげていただいて、それを事務局で選定してもらってこういう方でどうでしょうか、というキャッチボールをするのでどうか。

A 委員

それが一番いいのかなと思う。

議長

その度に、その都度その都度皆さんに集まっていただくのも大変でしょうから。メールでのやり取りをさせて頂いて、候補者の選定を進めていくことで。

事務局 B

実務的な話をすると、私一人で決めるわけではない。人脈もないし。皆さんからこういう人がいるよ、と言ってもらって、助けてもらって、交渉に入っていくことを想定している。会長が言われるように。

こういう人がいるよという推薦をできればどんどん出していただきたい。皆さんから推薦いただいた方を、また皆さんにどう？と投げかけるのはどうかなと思っています。

というのは、いただいた方をダメだよとか、ちょっとな一、とか言われてしまうとそこで止まってしまう。

例えば10人の候補が出てきて4人に絞るとかであればそのようにもできるが、どの段階でどのようにできるか、走りながらでないと進まないのが難しいなと思っている。

いっぱい集まった中で選べればいいのだけど、タイミングが合うときもあれば、ずれるときもあるので難しいなと。

議長

ある程度時期を決めて、いついつまでに推薦をしていただいて、それを事務局で揉んでもらって、こういう方があがってきたけどいかがですかと投げただけければ。

事務局 B

そうですね。

A委員

最終や締切りの期限は私たちにはわからない。いつまでに決めたいというのが判れば、いつまでに意見を出せばというのが判る。事務局から、明日までにと言われれば、明日までに出せば良いのではないか。

事務局 B

どうしても、トライアンドエラーが出ると思う。打診してみて、日程が合わないと断られることもある。

A委員

それは仕方がないこと。最悪、日程が決まってからその日は出られないことも無きにしも非ずだ。

事務局 C

そうすると日程が決まるのは8月以降。

議長

開催日は5月か6月。今までの例で4月ということはまずないと思う。5月に間に合うような段取りで進める。

A 委員

実行委員会としては、事務局が決める期限までに何を、ということをもっと聞いてもらえればそれに応じてする、という約束を実行員会参加者であればできますよね？

議長

それは次の資料の大会スケジュールのほうでも絡んでくると思いますので。ほかに基本計画についてご意見ありますか。

D 委員

プログラムを見ると、パネルディスカッションのパネリスト候補者は、林業研究グループ、林業関係団体、森林組合等林業事業体になっていますけど、それじゃあ面白くない。

議長

それで、「等」がついてますけど。

D 委員

「等」はあんまり当てにしない感じ。

各委員の人が、この人を是非とか、とやってもいいんですよ。

事務局 B

皆さんからこういう人がいるよとご紹介いただきたい。

D 委員

なぜこんなことを言うかという、こういう林業関係だけで世界を作っちゃダメなんだよな。それが今の林業の一番悪いところ。

もっと広い視野で見ている人がたくさんいると思う。

こんな林業ではダメだと堂々と反対する人もいる。そういう人の意見もどんどん聞いて、いいこと言ってくれたなど、そういう意見も出てくる可能性もあると思うんだよね。

だから、林業関係のあの人だからあの人を出そうとか、そういう視野では入れてほしくない。もっと広い視野でいろんな意見を出してもらえるところにこの大会の意義があると思う。

事務局 C

そういうことも含めて人選のほうをして推薦してもらえれば。ただ、あまりまとまりのないような集まりになっても、意見がチグハグになってもあれかと思いますが。

そこは事務局に任せてもらう部分も出てくるかと思いますが。

D 委員

でも、まとまらないですみませんでした、でいいのかと。

あんまり上手にまとめちゃうと、あれなんだこりゃ、ってなる可能性もあるから。

とても今の林業の状況では、まとめきれませんでしたと。それでもいいような気がするんだけど。

事務局 C

それも一つですね。「日本の未来を考える」大会テーマになりましたから。いろんな意見があるでしょうでしょうから。

最終的に結論が出なかったとしても、少なくとも話がかみ合うような人選は事務局に任せていただければと思っています。

A委員

複数の視点や意見を聴くことがパネルディスカッションなので、パネリストの意見を一致させる必要はない。

事務局 C

盛り上がるようなパネルディスカッションなればいいと思う。

議長

コーディネーターが難しい。

D委員

あんまりうまくまとめられてやると、面白くない。先が見えるような気がする。

A委員

なんだ、最初から着地点が決まってるんだと思ってしまう。

議長

コーディネーターになると、どうやってこれをまとめようかと思ってしまう。

かつては、活動発表は1例か2例で、講演会もあった。地元からんだ人の講演会があつて、事例発表があつて、パネルディスカッションがあつた。

D委員

実態はあんまり活動してないんだから、それをまとめたがってやってもつまらない。

議長

活動発表とパネルディスカッションが一体になってやるのもありかなと。

活動発表した人がパネラーになる形。いろんなやり方があると思うが。柔軟に対応できると思うが。

D委員

ふたつをくっつけて1つにしまえば。

A委員

パネルディスカッションに持って行くための前段階として、今の林業や日本の森林の状況を有識者の方に話してもらって、会場にいる人たちがそれぞれ思っている森林とか林業

の実態をある程度揃えてからパネルディスカッションに行けば、流れとして分かりやすい。

基調講演っていうんでしたっけ。

D 委員

そのほうが来た人もまとまりがつくような気がする。

A 委員

あんまり森林や林業のことを知らない人が、わからない人が来たときに、活動を発表しても、発表されている内容がわからない場合もあるんじゃないかと思う。

飯能市民の方でも、半分は山の人だとしても、半分は町場の人もいるでしょうし。漠然とした知識・イメージをお持ちの人もいるでしょうし。

D 委員

今言われたように講演会を入れる必要があると思う。

活動発表を聞くと、あー、あーそうか、そんな感じかってなっちゃう。

自己満足しちゃう。

議長

時間の枠が2時間しかないので、うまく流れがスムーズにいくように。基調講演的にこの人の話をしてもらったら、というのがあれば事務局へご提案いただければと。

そのあとパネルディスカッションの中で、最初に活動発表もできると思う。

A 委員

この前、政府系の金融機関の方に講演をやってもらった。自分の現状認識がズレていることにも気づかされた。講話も時間内に収めてくれるし、資料もきちっと作ってくれた。そういう方に聞くのも一つの手かと。

また場合によっては、日程が合わなければ話し手の交代も可能。（パネルディスカッションの前段階で）客観的なものがないと主観的なものと言っても話が偏ってしまう。まず客観的な事実を押さえて、今の林業や後継者はどうなっているか、という話をしたほうが全体をみたときにわかりやすい。

過去の大会では、基調講演をやっていないでしょうか。

議長

最近では覚えがない。

E 委員

やってないと思う。だいたいこの内容。発表してパネルディスカッション。発表した人がパネラーになるし、プラスの人が来ることもある。

事務局 B

基本計画案の大会プログラムは、先催県に倣って作成している。実行委員会の方で、活動発表に代わって基調講演ということであれば、講師の方の希望も聞いて時間配分も交渉していく。

活動発表をやる場合は1組だけというわけにはいかない、やるなら2組程度はやらないと思うので、そうすると基調講演と、活動発表と、パネルディスカッションの3本をやるのは時間的にきついと思う。

議長

もし、基調講演をやるのであれば、パネルディスカッションの中でパネラーが自己紹介的な発表を活動発表に兼ねることでもいいのでは。

A委員

確かにそのとおり。その活動の中で自分の考えがある。

議長

基調講演とパネルディスカッションの2本立て。

D委員

例えばこの人の話をという、いつまでに推薦を出せばいいか。

事務局 C

早いほうがいい。

議長

スケジュールの話に入りつつあるので、まず4号議案について、内容についてはフレキシブルに考えて、こういう形で進めてよいか。

A委員

それは、活動発表はパネルディスカッションと兼ねて、基調講演を入れるということか。

議長

基調講演があつてパネルディスカッションだと、パネルディスカッションはあまり議論されないまま終わることがある。

それで基調講演をやめて、パネルディスカッションを長くするというで前半を活動発表に変えた記憶がある。今までの例は、活動発表をした人がすべてパネラーになっている。そのような経緯だったと思う。

D委員

今までのやり方を崩してもいいんでしょ。

議長

それはいい。これだけでなくはいけないというのはない。

A委員

活動報告からすんなりとパネルディスカッションまで行けるような形であれば、いいんですけど。

逆にパネルディスカッションに参加するパネリストのプロフィールがわからないと話が見えないかな。自分で活動発表的なプロフィールを紹介する時間が必要かと思う。

基調講演については簡単にまとめたものをスクリーンで画像を流してもいい。

あえて先生を呼んで時間をとらなくても、画像で流して基調講演の代わりにすることもできる。そういう意味でフレキシブルにしてはどうか。

議長

パネラーはこういう人がどうなのかという意見をいただく期日を決めないと、先に進めない。

事務局 B

基本計画をこの後公表していく。活動発表ではなく基調講演に修正して大会計画としていただければ、今後の各方面への交渉していくのにもいい。

議長

いいが。

A 委員

例えば、プログラムは、基調講演にして、パネルディスカッションの下に活動状況を記述するということ？

文章の中にパネリストの活動発表をしながら討論してもらおう、とか。

事務局 B

そのような修正をかけて大会計画としていただくことでよろしいでしょうか。

A 委員

自分の意見はそう。

D 委員

私もそう思う。

議長

基調講演の人選がたいへんかなというのはありますが。

そのような形で進めていくということではよろしいでしょうか。

(一同、頷く)

はい。ではそのような形で大会計画を進めていく。ほかに意見はありますか。

A 委員

大会目的はこのままでよいか、皆さん、どうお考えか。

大会テーマが「森を支える日本の未来 私たちの手で作り出そう」という、大きなテーマなので、このままでよいか。

別に直す必要もないのでしょうか。ちぐはぐになって、後から言われるのも恥ずかしいかなと思う。

D 委員

基本は林業関係なんだから、これでいいのでは。

この人に話をしてもらえたらってこちらが推薦して、林業とはまるっきり分野が違う人になっても困るし。

開催目的の基本線で「この人は」という人を選べばいいのでは。

A 委員

今年の開催目的と同じなんだ。第52回と同じ。中身が良ければこだわる必要ないか。

D 委員

国内にこだわる必要ないんでは。

議長

基本計画については、一部修正ということによろしいか。賛成の方は挙手をお願いします。

(一同、挙手)

ありがとうございます。

・ 決議

基本計画は、大会計画のプログラムを一部修正することで可決された。

・ その他

今後のスケジュールについて

協賛金の募集案について

配布資料に基づき事務局から説明し、質疑応答を行った。

4 開 会

第53回全国林業後継者大会埼玉県実行委員会
第2回総会 出席者名簿

1 委員等

区分	所属	役職	氏名
会長	埼玉県森林協会	会長	
副会長	飯能市農林部	部長	
	埼玉県森林協会 林業研究グループ部会	部会長	
委員	埼玉県森林組合連合会	専務理事	
	一般社団法人埼玉県木材協会	専務理事	
	公益社団法人埼玉県農林公社 森林局	林務部長	
	埼玉県林業女性会議「結木の会」	会長	
	埼玉県農林部森づくり課	主査	
監事	公益社団法人埼玉県緑化推進委員会	事務局次長	

2 事務局

区分	所属	役職	氏名
事務局長	埼玉県農林部森づくり課	課長	
事務局次長		副課長	
事務局主幹		主幹	
事務局員	埼玉県川越農林振興センター 林業部	担当部長	
		主任	
		技師	